



図3：スタート直後の Verrazano-Narrows 橋 (左) とブルックリンのコース遠景 (右)

間、10月の終わりにはなんとか2時間走る身体になってしまっていました。「マラソンは楽しい」といった言説を、これまで胡散臭いものだと感じていたのは自分自身ですが、いや、本当に、つらくはなかった。というか、しんどさはあったが喜びが勝った。体重をみればいかに苦しんでないかわかります。私、身長171cmで体重82kg (BMIは28です)なのですが、レース直前まで殆んど変化なしでした (1kgくらい減ったけど)。

前置きが大変長くなりましたが、NYCマラソン当日の様子をお伝えします。NYCマラソンは保険会社のINGがスポンサー

(www.nycmarathon.org) で、世界中から約4万人が参加します。米国人が約半分。NY市民はそのまた半分。ヨーロッパからのエントリーが多いのに驚きます。日本人は453人。一方、中国人はわずか15人、韓国人も43人です。本来、出場は抽選制で、その倍率は7~8倍とか。日本人は旅行ツアーとセットなので、フリーパスでした。コースは図1のように、スタテンアイランドからブルックリンを北上。有名なQueensboro橋を渡ってマンハッタンに入ったあたりが、ちょうどコース半分。マンハッタンを北上し、治安の悪さで有名な(今はちがうが)サウス・ブロンクスを折り返し、ハーレムを通過しながら5番街をまっすぐ下りセントラルパークにゴールします。

スタートは10時。ほとんどのランナーは7時ころからバスでスタート地点にはいり、待機します (図2)。スタート地点から見るマンハッタンははるか遠く、あんなとこまで走るのか、という感じ。4万人のスタートは壮観 (図3)。スタートにあわせてフランクシナトラの「ニューヨーク・ニューヨーク」が大音響で流れるのがおしゃれです。沿道は、



図4：10km地点
コースのところどころに主催者委託のカメラマンがデジタル写真をとっている。後日、ホームページでゼッケン番号を検索すると自分の写った写真が何枚もでてくる。それをまとめてオンラインで購入。100ドル (頭のいい金儲けだなあ……)。